

青雲

図書館だより

第9号

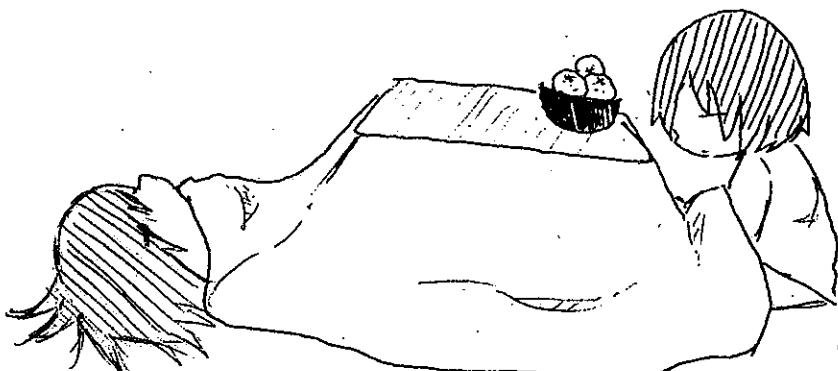
2013年12月6日

岩手県立花北青雲高等学校図書委員会

新しい本が入りました！

- ・そして父になる
- ・れたちバブル入行組
- ・れたち花のバブル組
- ・半分の月が"ほら"空 1~4
- ・ねじれた糸 赤ちゃん取り違え事件の十七年
- ・野心のすすめ
- ・ロスジェネの逆襲
- ・吹部！
- ・僕のつくった怪物 Arknoah 1
- ・祈りの幕が下りる時
- ・ヒア・カムズ・サ・サン

今回もたくさんリクエスト
ありがとうございました!!
まだまだたくさんリクエスト
お待ちしております!!



お知らせ

- 12月17日に学級文庫を回収します。
それまでには返却して下さい。
- 冬休みについて
- 開館日 ... 12/25、26、27日
- 開館時間 ... 午前8時半~午後5時まで
- なお、1人につき3冊までの貸出です
お預かりします。

先生方。オススメ本

3人の先生方に冬休みを利用して読めるオススメの本を開いてみました!
冬休みを利用してぜひ読んでみて下さい。

『水滸伝』 著者 北方謙三（きたかたけんぞう）
図書委員の某さんは、私にこう言った。
「お薦めの本を教えて下さい。冬休み中に読めるくらいの、あまり長くないものがいいです。」
なるほど。では私のお薦めを挙げよう。

北方のおっさんの『水滸伝』全二十巻を。
嫌がらせ? はっはははは違う違う。嫌がらせだったら栗本薰さんの『グイン・サーヴ』(正伝 130巻 外伝 21巻、作者死去のため未完)をお薦めするね! ……北方『水滸伝』は、志(こころざし)に生き、志に斃れる男たちの物語である。ハードボイルドな生き方に、君たちもふれてみてはいかがだろうか。

後藤裕介

『○に近い△を生きる』 鎌田 實

推薦者 村上 宏文

最近、同氏の『あきらめない』を読み、こんな医者や病院なら自分もお世話になりたいと考えていた。日本にこんな医者がいることに勇気づけられた。そんな鎌田さんの新しい著作がこの変わった△を生きるという提案である。本の冒頭の「はじめに」の文章がいい。ここだけで、勇気がもられて元気が出る。「…そろそろ、ぼく達はこの国を変えなければならない。若い人の力で、この国の生き方を変える時期が来ている。淀んだ空気の中で空気を読み合うのではなく、子供や若者のために中高年の方は、空気をかき回したり、空気を入れ換えたりする、勇気を持ってほしい。がんばれば豊かになれる」という古ぼけた「正解」から離れて、○に近い△=「別解」を見つけていこう。×でも○でもない、無数の新しい△を信じて、生きてみよう。人生が輝いてくるだろう、きっと。生きるのがまちがいなく、おもしろくなる。信じていい。」

個人的に印象深いのは、革命家チェ=ゲバラがわずか12人の仲間だけで、近代兵器を備えた2万人の政府軍と戦い、勝利したところである。そこには、ゲバラが戦いにおいて「△の道、別解を選択したこと」だった、という事実である。医師でもあるゲバラの志は、現在の医療大国キューバの精神的支えとなって生きている。所得は低いが健康度はアメリカをしのぐほど高い国として、キューバ医療は世界のお手本になっているのである。

新田次郎著 「アラスカ物語」
推薦者 日山 登啓

とにかくおもしろい。あくびをしながら読む部分はありません。こんな偉大な人が実在したなんて信じられない。主人公は明治時代の人で、宮城県石巻出身。私は同じ東北人です。この人は運命のいたずらで北極地域に住むエスキモーの世界に入り生活することになります(結局、生涯をそこで終える。日本にも帰りたかったり)。その頃、食糧の危機的状況がエスキモー一人達を襲いつつありました。そのエスキモーの一団体を大移動させ救う話です。まるでモーゼ(知らない?)のような人なのです。まあ、とにかく読んでみて下さい。元気をなくしている君! ぜひ読みましょう。

